KENWOOD

CDプレーヤー

DP-K1000

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございました。
ご使用の前に、この取扱説明書をお読みのうえ、説明の通り正しくお使いください。
また、取扱説明書は大切に保管して、必要になったときに繰り返してお読みください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

お客様の安全のため、必ず『安全上のご注意』をお読みのうえご使用ください。

株式会社 ケンウッド
Kenwood Corporation

AAC
MP3
WMA

© B60-5718-00/00 (J) BT

安全上のご注意

⚠ このページは、感電や火災からあなたを守るため、ご使用前には必ずお読みください。

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用の前によくお読みください。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為に、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容を良く理解してから、本文をお読みください。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

お客様または第三者が、この製品の誤使用・故障・その他の不具合およびこの製品の使用によって受けられた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんのであらかじめご了承ください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- お客様または第三者がディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

この「安全上のご注意」には、当社のオーディオ機器全般についての内容を記載しています。
（説明項目の中には、本文での説明と重複する内容もあります）

⚠警告

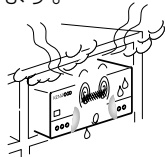
交流100ボルトの電圧で使用する

この機器は、交流100ボルト専用です。指定の電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

船舶などの直流（DC）電源には接続しない

火災の原因となります。

通風孔をふさがない

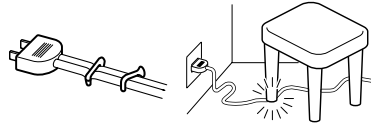
- あおむけや横倒し、逆さまにして使用しない。
- 布を掛けたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しない。
- 風通しの悪い狭い所で使用しない。通風孔がふさがると、内部に熱がこもり、火災の原因となります。

風呂、シャワー室では使用しない

風呂、シャワー室など湿度の高いところや、水はねのある場所では使用しない。火災・感電の原因となります。

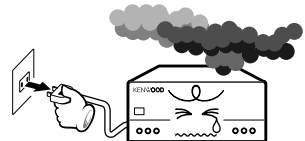
水をかけたりぬらしたりしない

火災・感電の原因となります。
雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したり、ステープルや釘などで固定したりしない。
電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしたりしない。コードを敷物などで覆ってしまうと、気づかずに重いものをのせてしまうことがあります。コードが傷つき、火災・感電の原因となります。

電源コードが傷ついたら（芯線の露出、断線など）販売店または当社サービス窓口に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

異常が起きた場合は電源プラグを抜く

内部に水や異物が入ったり、煙が出たり、変な臭いや音がしたりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙や、異臭、異音が消えたのを確かめてから修理をご依頼ください。

⚠警告

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となります。

電源プラグを定期的に清掃する

電源プラグにほこりなどが付着していると、湿気等により絶縁が悪くなり、火災・感電の原因となります。
電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。

機器の上に花びんやコップなど水の入った容器を置かない

水がこぼれて中に入ると、火災・感電の原因となります。

機器の内部に水や異物を入れない

機器の通風孔、開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしない。
火災・感電の原因となります。

機器のケースを開けたり改造したりしない

内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。
点検、修理は販売店または当社サービス窓口にご依頼ください。

雷が鳴り始めたらアンテナ線や電源プラグには触れない

感電の原因となります。

落下した機器は電源プラグを抜く

機器を落としたり、カバーやケースがこわれたりした場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、点検、修理をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

電池は乳幼児の手の届かないところに置く

電池をあやまって飲み込むおそれがあります。ボタン電池など小型の電池は特にご注意ください。
万一、お子さまが飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

乾電池は充電しない

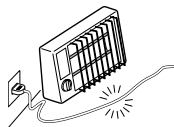
電池の破裂、液もれにより、火災・けがの原因となります。

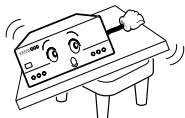
機器の上にろうそくやランプなど火のついた物を置かない

本機のカバーやパネルにはプラスチックが使われており、燃え移ると火災の原因となります。

⚠注意

電源コードを熱器具に近づけない

電源コードを熱器具（ストーブ、アイロンなど）に近づけない。
コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かない。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

湿気やほこりの多い場所に置かない

油煙や湯気の当たる調理台や加湿器のそば、湿気やほこりの多い場所に置かない。
火災・感電の原因となることがあります。

温度の高い場所に置かない

窓を閉めきった自動車の中や直射日光があたる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない。
本体や部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

アンテナ工事は販売店に相談する

工事には、技術と経験が必要です。アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと発熱したりほこりが付着したりして、火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると、感電の原因となることがあります。電源プラグを根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントの場合には、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

長期間使用しないときは電源プラグを抜く

旅行などで長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災の原因となることがあります。

移動させるときは電源プラグを抜く

移動させるときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、接続コードを外す。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

お手入れの際は電源プラグを抜く

お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く。感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

⚠注意

機器の接続は取扱説明書に従う

関連機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する。また、接続は指定のコードを使用する。
あやまった接続、指定以外のコードの使用、コードの延長をすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きな物を置かない

バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

機器に乗らない

機器に乗ったり、ぶら下がったりしない。特にお子様にはご注意ください。
倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

はじめから音量を上げすぎない

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。特にヘッドホンをご使用になるときは注意してください。

耳を刺激するような大きな音で長時間続けて聞かない

聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンをご使用になるときは注意してください。

長時間音が歪んだ状態で使わない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

ひび割れディスクは使わない

ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しない。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。

レーザー光線をのぞき込まない

レーザー光が目に当たると、視力障害を起こすことがあります。

ディスク挿入口に手を入れない

手がはさまれて、けがの原因となることがあります。特にお子様にはご注意ください。

定期的に内部の点検、清掃をする

3年に1度程度を目安に、機器内部の点検、清掃をお勧めします。販売店、または最寄りのケンウッドサービス窓口に費用を含めご相談ください。
内部にほこりのたまったまま長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。

⚠注意

電池の取り扱いに注意する

次のことを、必ず守ってください。

- 極性表示（プラス"+"とマイナス"−"の向き）に注意し、表示どおりに入れる。
- 指定の電池を使用する。
- 使い切ったときや、長期間使用しないときは、取り出しておく。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
- 違う種類の電池を混ぜて使用しない。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れたりしない。

電池は誤った使い方をすると、破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を破損する原因となることがあります。
電池を入れたままにしておくと、過放電により液がもれ、けがややけどの原因となることがあります。
液がもれた場合は、点検、修理をご依頼ください。万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

こんなことができます

いろいろなフォーマットで記録された

ディスクの再生

音楽CDだけでなく、オーディオファイル（MP3/WMA/AAC）を記録したディスクの再生に対応しています。

便利で簡単操作

システムコントロール接続

本機とアンプ/チューナー（R-K1000：別売）をシステムコントロール接続すると次の操作が可能になります。

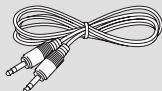
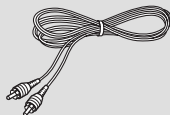
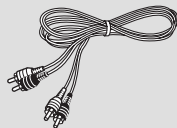
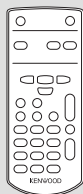
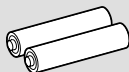
- 本機でCDを再生すると、R-K1000の入力が自動的にCDに切り換わります。
- R-K1000に付属のリモコンでCD再生、プログラム再生、ランダム再生、リピート再生の操作ができます。
- R-K1000の電源をオン/オフすると、本機の電源も連動します。
- R-K1000でDIMMER、ディスプレイセーバー、オートパワーセーブ機能を設定すると、本機でも作動します。

もくじ

⚠ このマークのついた項目は、安全確保のために必ずお読みください。

付属品について

付属品

システムコントロールコード
（1本）

COAXIAL（同軸）コード
（1本）

オーディオコード
（1本）

リモコン
（RC-P0800：1個）

リモコン用乾電池
（単4形：2本）

本書について

本機は本体でも操作できる機能がありますが、本書では主にリモコンによる操作手順を表記しています。

このシンボルマークはケンウッドにおいて環境に対する影響を軽減した商品であることをお知らせするマークです。

知っておいていただきたいこと

本機で使えるディスク

ディスク	説　明
市販の音楽CD	● コピーコントロール付きCDなど、CDの規格に準拠していないディスクは再生できない場合があります。
CD-DAのフォーマットで記録したCD-R/CD-RW	● 書き込み時にファイナライズ処理をする必要があります。
MP3/WMA/AACを記録したCD-ROM/CD-R/CD-RW	● 書き込み時にファイナライズ処理をする必要があります。 ● 本書ではMP3, WMA, AACファイルをまとめて「オーディオファイル」と呼びます。

● CD-ROM、CD-R、CD-RWディスクを記録した機器や記録状態、また使用しているCD-ROM、CD-R、CD-RWの種類によっては本機で再生できない場合があります。

ディスクに書き込むときのご注意

● パケットライト方式やUDF（Universal Disc Format）方式で記録されたディスクは再生できません。

● ディスク書き込み時は、必ずセッションクローズまたはファイナライズしてください。セッションクローズまたはファイナライズしていないディスクは、正しく再生できない場合があります。

● 書き込みソフトの仕様によっては、書き込まれたフォルダ名やファイル名が正しく表示されない場合があります。

● マルチセッションディスクや、フォルダを多く含んでいるディスクを再生する場合、再生が始まるまで通常のディスクより時間がかかることがあります。

● 同一のディスクに、オーディオファイルと音楽CD（CD-DAフォーマット）を書き込むと正しく再生できません。

● オーディオファイルをディスクに書き込む前に、書き込みをするパソコンで、ファイルが正しく再生されることを確認してください。
書き込みが終わったら、書き込まれたファイルが正しく再生されることを確認してください。

● オーディオファイルのファイル名には正しい拡張子（mp3, wma, m4a）を付けてください。拡張子が付いていないファイルは再生されません。また、オーディオファイルでないものには拡張子（mp3, wma, m4a）を付けないでください。
拡張子については、次ページの「再生できるオーディオファイル」をご覧ください。

再生できるオーディオファイル

本機は以下のオーディオファイル（MP3、WMA、AAC）が記録されたCD-ROM、CD-R、CD-RWを再生できます。

MP3ファイル

ファイルフォーマット：MPEG 1 Audio Layer 3/ MPEG 2 Audio Layer 3/ MPEG 2 Audio Layer 3 Lower sampling rate（MPEG2.5）
拡張子：.mp3
サンプリング周波数
MPEG 1 Audio Layer 3：32 kHz/ 44.1 kHz/ 48 kHz
MPEG 2 Audio Layer 3：16 kHz/ 22.05 kHz/ 24 kHz
MPEG 2.5：8 kHz/ 11.025 kHz/ 12 kHz
ビットレート
MPEG 1 Audio Layer 3： 32 kbps ～ 320 kbps
MPEG 2 Audio Layer 3：8 kbps ～ 160 kbps
MPEG 2.5：8 kbps ～ 160 kbps

WMAファイル

ファイルフォーマット：
Windows Media™ Audio準拠
拡張子：.wma
サンプリング周波数：32 kHz/ 44.1 kHz/ 48 kHz
ビットレート：48 kbps ～ 192 kbps

● Windows Media™ Player 9以降の、以下の機能を使用して作成したファイルは再生できません。
- WMA Professional
- WMA Lossless
- WMA Voice

AACファイル

ファイルフォーマット:MPEG-4 AAC（iTunes™ 4.1～7.3で作成されたもの）
拡張子：.m4a
サンプリング周波数：16 kHz/ 22.05 kHz/ 24 kHz/ 32 kHz/ 44.1 kHz/ 48 kHz
ビットレート：32 kbps ～ 320 kbps

● Apple™ ロスレス・エンコーダで作成されたファイルは、再生できません。

ディスクフォーマット

ISO 9660 Level 1
ISO 9660 Level 2
Joliet
Romeo

ディスクのファイル数制限

最大ファイル/フォルダ数：合計512
最大フォルダ数：255
１フォルダ内のファイル数：255

表示できる最大文字数

ファイル名：64文字（拡張子含む）
フォルダ名：64文字
タグ表示（Title/Album/Artist）
ID3 v1.0/ 1.1：30文字
ID3 v2.2/ 2.3/ 2.4：128文字

● 本機が表示できる文字種は、カタカナと英数字です。表示できない文字は「＊」と表示されます。

その他の注意事項

● 前記の規格に準拠したオーディオファイルでも、ディスクの特性、記録状態などにより、再生できない場合があります。

● エンコードしたソフトの仕様や設定によっては、再生できない場合があります。

● DRM（デジタル著作権管理）付きファイルは、再生できません。

● VBR（Variable Bit Rate；可変ビットレート）でエンコードされたオーディオファイルは、対応ビットレートの範囲外になることがあります。このような対応範囲外のビットレートのオーディオファイルは再生できません。

ディスクの取り扱い

取り扱い上のお願い

再生面にふれないように持ってください（レーベルが印刷されていない面が再生面です）。

本機で使用できるディスクについて

CD（12cm、8cm）、CD-ROM、CD-R、CD-RW、CD-EXTRAの音声部分が再生できます。

CD-ROM/CD-R/CD-RWディスクについて

レーベル面に印刷可能なCD-ROM、CD-R、CD-RWを使用すると、レーベル面が貼り付いてディスクの取り出しができなくなることがあります。本機の故障の原因となるため、このようなディスクは使用しないでください。

CDディスクのご注意

COMPACT disc DIGITAL AUDIO のマークが入ったディスクをご使用ください。

このマークが入っていないディスクは正しく再生できない場合があります。

再生中、ディスクはプレーヤー内で高速回転しています。ひびや欠けのあるディスク、大きくそったディスク等は絶対に使用しないでください。プレーヤーの破損、故障の原因になります。
円形以外の形をしたディスクは、故障の原因になりますので、ご使用にならないでください。

本機を設置するときのご注意

● 必ず平らで安定した場所に設置してください。台などの上に設置する場合は、必ず台の強度を確認してください。

⚠ 注意

機器を設置するときは、下記のことをお守りください。放熱が十分でないと、内部に熱がこもり、故障や火災の原因となることがあります。

● 機器の各面から、下記に示すスペースを空けてください。
背面：10cm以上

機器は電源コンセントに容易に手が届く位置に設置し、異常が起きた場合すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。
また、電源スイッチを切っただけでは機器は電源から完全に遮断されません。
完全に遮断するには、電源プラグを抜いてください。

輸送時または移動時のご注意

本機を輸送または移動する場合は下記の操作を行ってください。

① CDを取り出します。

② [►/II]キーを押し、「NO DISC」がディスプレイに表示されるのを確認します。

③ 数秒間待ち、電源をオフにします。

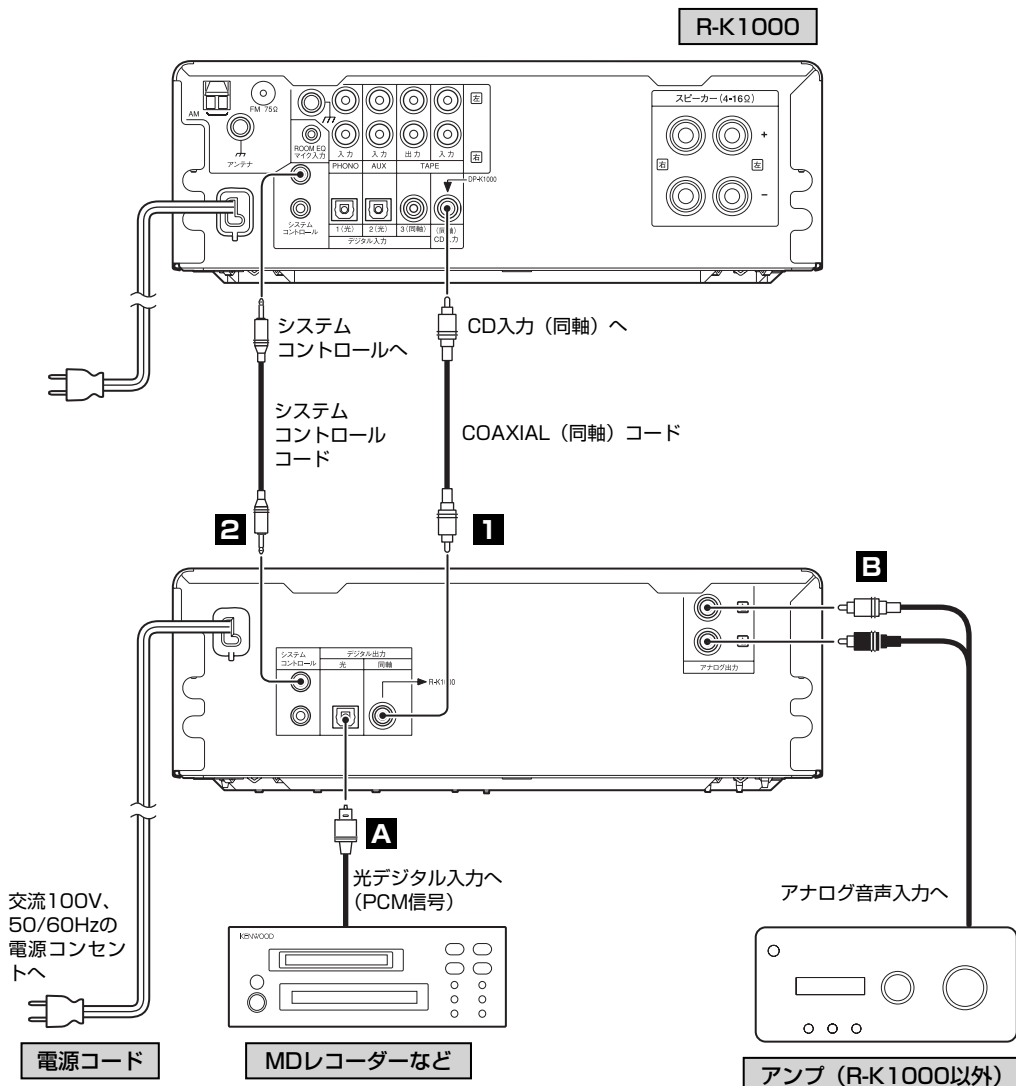
④ その他外部機器が接続されている場合は、電源がオフになっていることを確認してからケーブルを抜いてください。

接続のしかた

基本接続

すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合は、音が出なくなったり、雑音が発生することがあります。

接続上のご注意

接続が終了するまで、電源コードのプラグをコンセントへ差し込まないでください。
接続したコード、ケーブル類を抜くときは、事前に必ず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

●コンセントの奥まで確実に差し込んでください。

R-K1000（別売）と接続する場合

1 デジタル出力（同軸）

本機をR-K1000（別売）と接続する場合は、付属のCOAXIAL（同軸）コードを使って、R-K1000の**[CD入力（同軸）]**端子を本体背面部の**[デジタル出力（同軸）]**端子に接続します。

2 システムコントロール

本機をR-K1000（別売）と接続する場合は、付属のシステムコントロールコードを使って、R-K1000の**[システムコントロール]**端子を本体背面部の**[システムコントロール]**端子に接続します。

その他の機器と接続する場合

A デジタル出力（光）

MDレコーダーなどの光デジタル入力端子を本体背面部の**[デジタル出力（光）]**端子に接続します。

B アナログ出力

本機をR-K1000（別売）以外のアンプ、またはデジタル入力端子のないアンプと接続する場合は、付属のオーディオコードを使って、接続するアンプの音声入力端子を本体背面部の**[アナログ出力]**端子に接続します。

マイコンの誤作動について

正しく接続したのに正常に動作しない場合や、ディスプレイが誤った表示をする場合はマイコンをリセットしてください。（P.34）

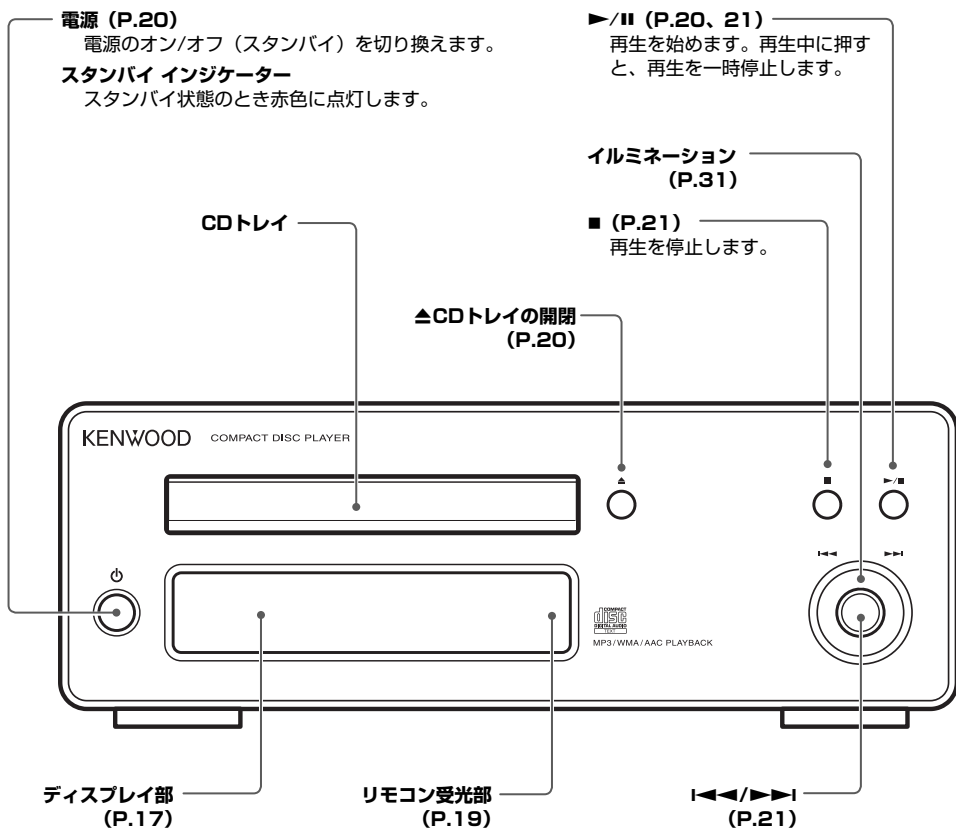
● 関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ステレオ音の
エチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。
夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご利用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

各部のなまえと働き

本体部

リモコン部と同じ名前のキーは、リモコン部と同じ働きをします。

スタンバイ状態について

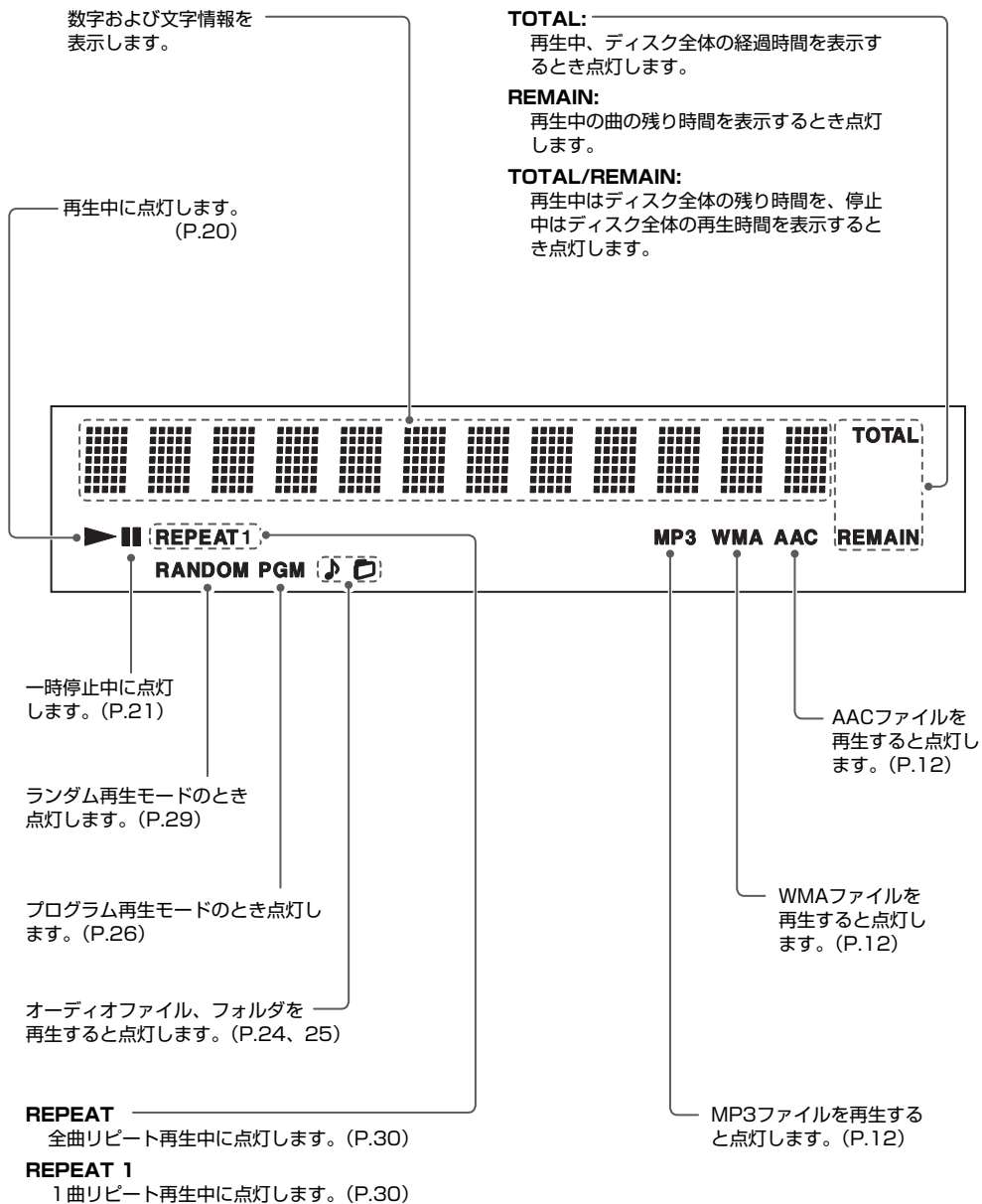
本機のスタンバイ インジケーターが点灯中は、メモリー保護のため、微弱な通電が行われています。これをスタンバイ状態といいます。またこの状態のとき、リモコンで本機の電源をオンにできます。

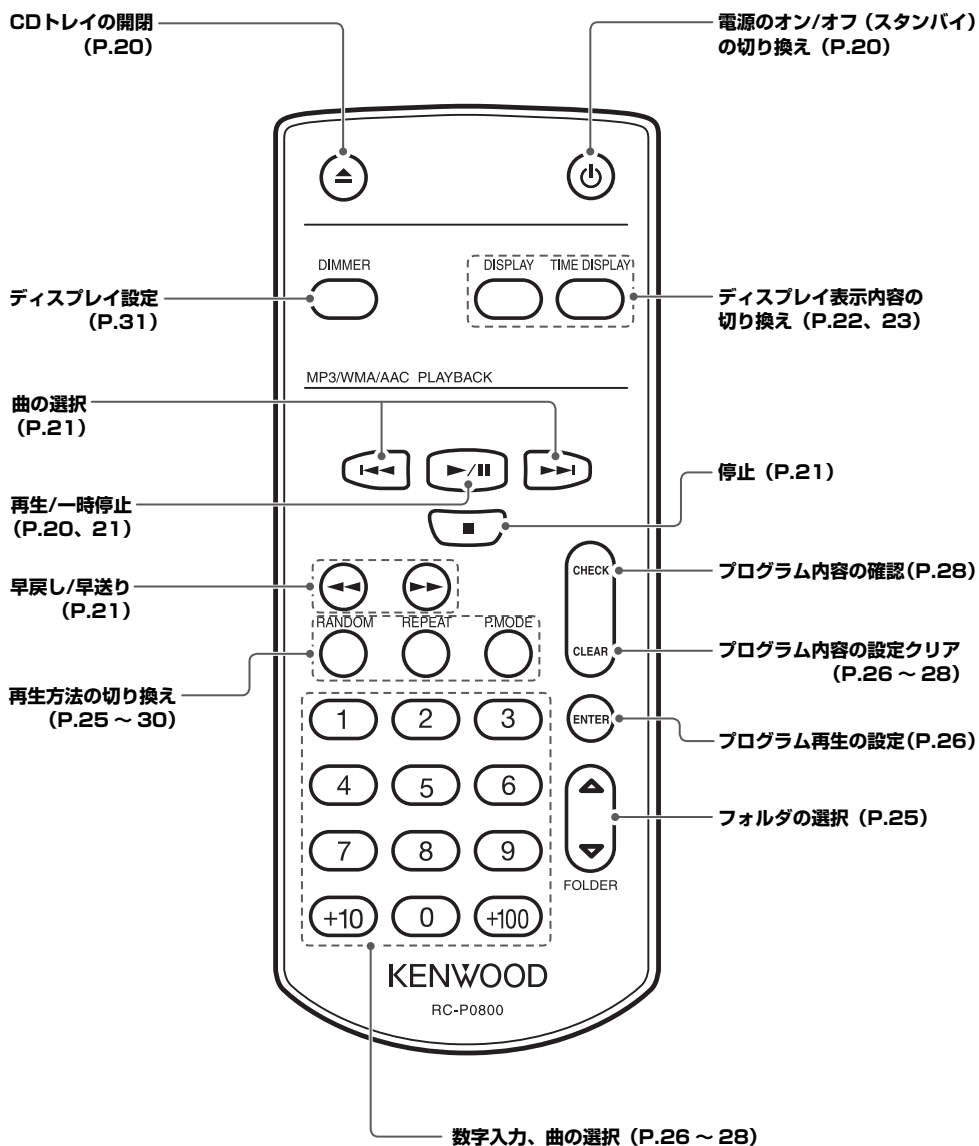
システムコントロール接続について

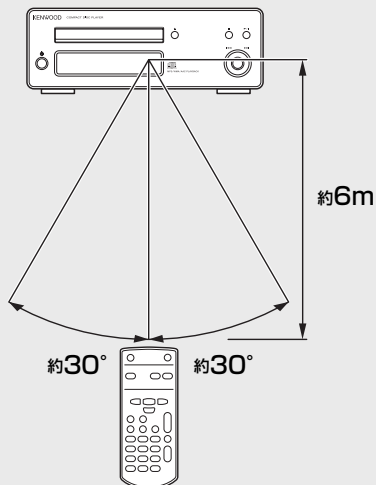
本機をR-K1000（別売）とシステムコントロール接続しているときは、本機は次のように動作します。

- 本機を再生するとR-K1000の入力が自動的にCDに切り換わり、R-K1000のリモコンを使って本機の操作ができます。またR-K1000の入力をCDにすると、本機の再生が始まります。
- R-K1000の電源をオン/オフすると、本機の電源も連動します。
- R-K1000でDIMMER、ディスプレイセーバー、オートパワーセーブ機能を設定すると、本機でも作動します。

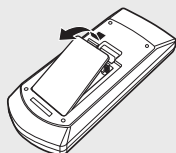
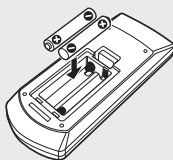
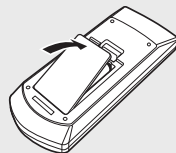
ディスプレイ部

本文中のディスプレイ表示は、
実際の表示と異なる場合もあります。

リモコン部

本体部と同じ名前のキーは、本体部と同じ働きをします。

操作のしかた

本体の電源プラグをコンセントに差し込み、リモコンの電源[⏻]キーを押すと、電源がオンになります。
電源がオンになったら、操作したいキーを押します。
リモコンは本体のリモコン受光部に向けて使用してください。

● リモコン受光部に直射日光や高周波点灯（インバーター方式等）の蛍光灯の光が当ると、正しく動作しないことがあります。このような場合、誤動作を避けるために設置場所を変えてください。

リモコンの電池の入れ方

① 電池カバーを外します。

② 付属の単4形乾電池を入れます。

● 電池の極性（⊕⊖）に注意して入れてください。

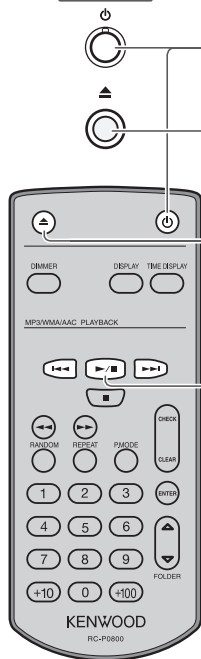
③ 電池カバーを閉じます。

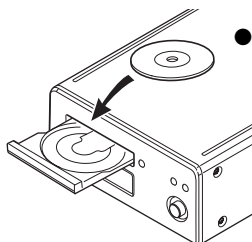
● 付属の乾電池は動作チェック用のため、寿命が短いことがあります。

● 電池を交換するときは、2本とも新しい乾電池と交換してください。

CDを聞く

CDを再生する

CD をセットして再生します。

1 電源[⏻]キーを押して電源を入れる

2 [⏏]キーを押してCDトレイを開き、CDを入れる

● ラベル面を上にしてトレイからずれないように入れてください。

3 [⏏]キーを押してCDトレイを閉じる

CDを読み込んでいるあいだ、「READING」が点滅します。

4 [►/❚❚]キーを押す

再生中のトラック番号

再生中の曲の経過時間

● CD-TEXT対応のディスクでは、曲名やアルバム名などの文字情報が表示されます。

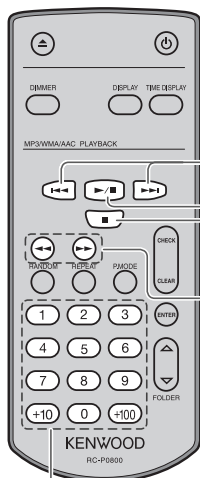
● 停止中に**[►►❙]**を押すと最小トラック番号の次の曲から、**[❙◄◄]**を押すと最大トラック番号の曲から再生が始まります。

● 以下のようなディスクを再生すると、トラック番号が正しく表示されないことがあります。
- Mixモード*で記録されたディスク
- マルチセッションで記録されたディスク
- CD-DAのフォーマットと音楽データではないフォーマットが混在して記録されたディスク

* MixモードとはCD-DAのフォーマットとMP3/WMA/AACなどのオーディオファイルが混在するモードのことです。

- プログラム再生する→P.26
- ランダム再生する→P.29
- リピート再生する→P.30

■CD再生中の操作

本　体

曲を飛ばす / 前の曲へ戻る / 曲の初めに戻る

前のまたは次の曲に飛ばす：**[I◄◄]**または**[►►I]**キーを押す。（リモコン）
[I◄◄]または**[►►I]**へつまみをまわす。（本体）

前の曲へ戻る：**[I◄◄]**キーを連続して2回以上押す。（リモコン）
[I◄◄]へ連続して2回以上まわす。（本体）

曲の初めに戻る：**[I◄◄]**キーを1回押す。（リモコン）
[I◄◄]へ1回まわす。（本体）

一時停止と再開

[►/II]キーを押す。

停止する

[■]キーを押す。

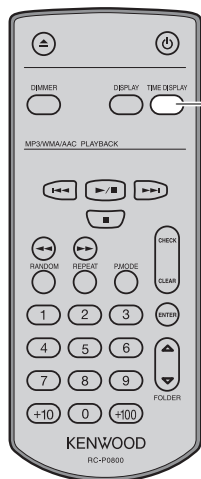
早送り / 早戻しをする

[◄◄]または**[►►]**キーを押し続ける。（リモコン）

曲番号を指定する

17曲目のときは**[+10]**キー 、**[7]**キーを押す。
30曲目のときは**[+10]**キーを3度押して、**[0]**キーを押す。
105曲目のときは**[+100]**キー、**[5]**キーを押す。

MP3/WMA/AAC

- **[■]**キーで再生を停止したときは、そのとき再生していた曲が記憶されており、**[►/II]**キーを押すとその曲の最初から再生が始まります。（レジューム機能）
- **[■]**キーを２回押すとレジューム機能は解除されます。

時間表示を切り換える

CD

[TIME DISPLAY]キーを押すたびにディスプレイの表示が次のように切り換わります。

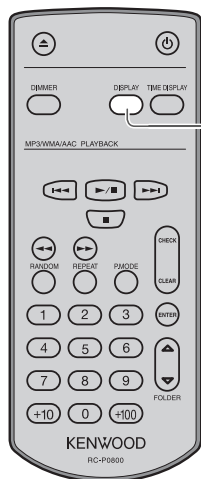
CDトラック再生/プログラム再生のとき/全曲リピート再生のとき

1曲リピート再生/ランダム再生のとき

● 時間表示の合計が1000分以上になると「−−−:−−」と表示されます。

MP3/WMA/AAC

1曲の経過時間のみ表示します。

● 再生できるオーディオファイル→P.12

CD-TEXT対応ディスクの表示を切り換える

CD

[DISPLAY]キーを押すたびにディスプレイの表示が次のように切り換わります。

● CD-TEXTに対応していないディスクはトラック番号のみ表示されます。

TAG情報の表示を切り換える

MP3/WMA/AAC

オーディオファイルには、曲のタイトル、アーティスト名、アルバム名などのTAG情報が記録されています。

[DISPLAY]キーを押すたびにディスプレイの表示が次のように切り換わります。

● TAG情報がない場合は「・・・・・・・・・・・・・」と表示されます。

● エンコードしたソフトの仕様や設定によっては、TAG情報が正しく表示できない場合があります。

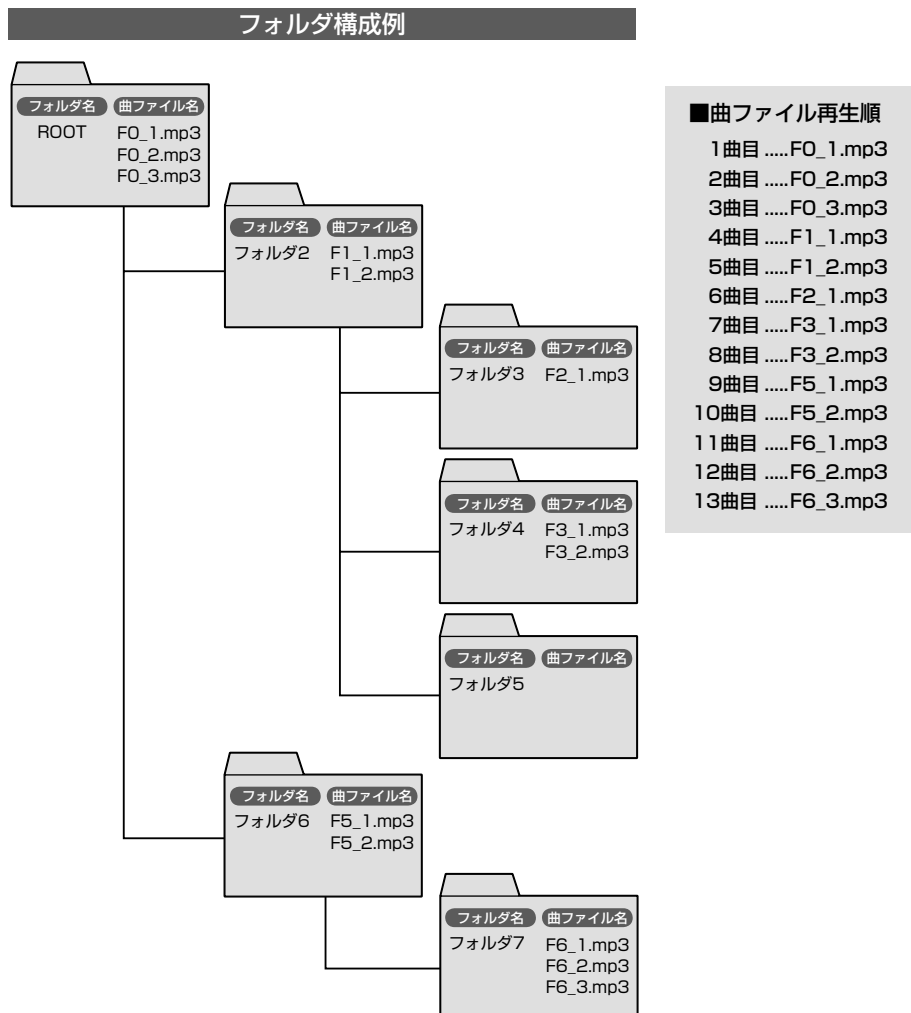
■フォルダや曲ファイルの再生順について

MP3/WMA/AAC

オーディオファイルが記録されたディスクを再生すると、ディスク内の曲ファイルは図のように、ROOT フォルダのファイルから順に再生します。

フォルダ構成例

■曲ファイル再生順

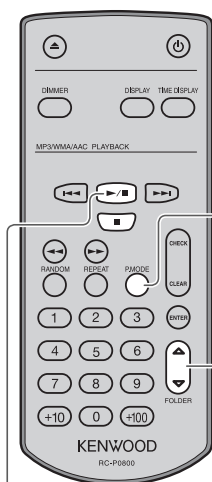
1曲目 .....F0_1.mp3
2曲目 .....F0_2.mp3
3曲目 .....F0_3.mp3
4曲目 .....F1_1.mp3
5曲目 .....F1_2.mp3
6曲目 .....F2_1.mp3
7曲目 .....F3_1.mp3
8曲目 .....F3_2.mp3
9曲目 .....F5_1.mp3
10曲目 .....F5_2.mp3
11曲目 .....F6_1.mp3
12曲目 .....F6_2.mp3
13曲目 .....F6_3.mp3

- ファイルのないフォルダが記録されている場合は、そのフォルダは選択できません。
- ファイル名の頭に“01”から“99”などの番号を付けてからディスクに記録すると、再生する順番を設定することができます。

関連情報
● 再生できるオーディオファイル→P.12
● ランダム再生する→P.29
● リピート再生する→P.30

フォルダ再生モードにする

MP3/WMA/AAC

選択したフォルダ内のファイルだけを再生します。

● 再生中の場合は、[■]キーを押して再生を停止します。

1 [P.MODE]キーを押してフォルダ再生モードを選ぶ

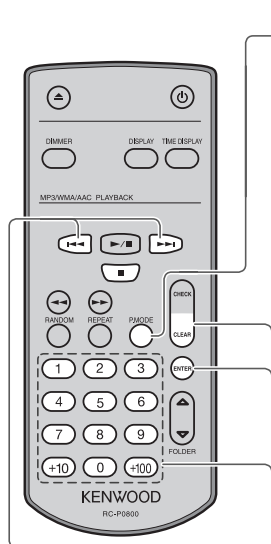
押すたびに切り換わります。

2 [FOLDER △]または[FOLDER ▽]キーを押して再生したいフォルダを選ぶ

3 [►/II]キーを押して再生する

プログラム再生する

CD をお好きな順番で聞くことができます（最大 32 曲)。

● 再生中の場合は、**[■]**キーを押して再生を停止します。

1

CD

[P.MODE]キーを押してプログラム再生モードを選ぶ

押すたびに次のように切り換わります。

PGM 点灯 ▶ PGM 消灯

プログラム再生モード　プログラム再生モード解除

MP3/WMA/AAC

❶ [P.MODE]キーを押してプログラム再生モードを選ぶ

押すたびに次のように切り換わります。

フォルダ再生モード　プログラム再生モード　プログラム再生モード解除

❷ プログラム再生したいフォルダを選ぶ

■数字キーで選ぶ場合

フォルダ番号17のときは**[+10]**キー、**[7]**キーを押す。
30のときは**[+10]**キーを3度押して、**[0]**キーを押す。
105のときは**[+100]**キー、**[5]**キーを押す。

▶ **[ENTER]**キーを押す

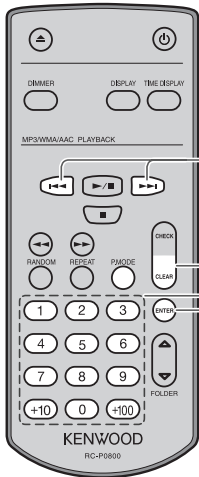
■[I◄◄]または[►►I]キーで選ぶ場合

▶ **[ENTER]**キーを押す

フォルダ番号158を選んだ場合

● 入力を間違えた場合は、**[ENTER]**キーを押す前に**[CLEAR]**キーを押して、もう一度入力してください。

●フォルダを選んでから20秒以内に**[ENTER]**キーを押してください。

● リピート再生する→P.30

数字キーまたは[I◄◄]/[►►I]キーを押して聞きたい曲またはファイルを選ぶ

CD

トラック番号10をプログラムの
1曲目に選んだとき

MP3/WMA/AAC

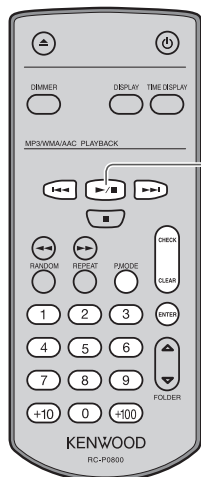
ファイル番号5を選んだとき

- 入力を間違えた場合は、手順３へ進む前に**[CLEAR]**キーを押して、もう一度入力してください。
- 曲またはファイルを選んでから20秒以内に手順３へ進んでください。

[ENTER]キーを押す

２曲以上選ぶときは手順２から３（CD）または手順１－❷から３（MP3/WMA/AAC）を繰り返す

- 32曲まで選ぶことができます。さらに選ぼうとすると「PGM FULL」と表示されます。

次ページに続く

5 [►/II]キーを押して再生する

■プログラムモードを解除するには

再生を停止し、**[P.MODE]**キーを押して「PGM」表示を消灯させせます。
設定したプログラムは消去されます。

■再生中のプログラム番号を確認するには

再生中に**[CHECK]**キーを押す。

■プログラムした曲を確認するには

再生を停止し、**[CHECK]**キーを押し、**[I◄◄]**または**[►►I]**キーを押します。
プログラム番号順に、プログラム番号とトラック番号（CD）または
プログラム番号とファイル名（MP3/WMA/AAC）が表示されます。

■プログラムした曲を変更する

再生を停止し、**[CHECK]**キーを押します。**[I◄◄]**または**[►►I]**キーを押して変更したいプログラム番号を選び、**[ENTER]**キーを押します。
「プログラム再生する」の手順2から3（CD）または手順1-❷から3
（MP3/WMA/AAC）の操作をします。
設定後、**[CHECK]**キーを押すと通常表示に戻ります。

■曲を後から追加するには

再生を停止し、手順2から3（CD）または手順１－❷から3
（MP3/WMA/AAC）の操作をします。

■プログラムした曲を消去するには

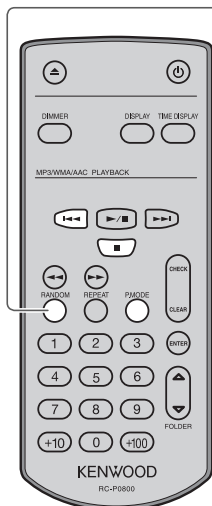
曲を選んで消去する
再生を停止し、**[CHECK]**キーを押します。**[I◄◄]**または**[►►I]**キーを押して消去したいプログラム番号を選び、**[CLEAR]**キーを押します。
選んだプログラム番号が消去され、後ろのプログラム番号が前に繰り上がります。

最後の曲から消去する
再生を停止し、**[CLEAR]**キーを押します。
押すたびに、プログラムした最後の曲から1曲ずつ消去されます。

● 電源をオフにしたりプログラム再生を設定したCDを取り出すと、設定したプログラム内容は消去されます。

ランダム再生する

再生中の CD 内、またはフォルダ内の曲を順不同で再生します。

●「PGM」が点灯しているときは、停止中に**[P.MODE]**キーを押して消灯させてください。

1 [RANDOM]キーを押す

押すたびに次のように切り換わります。

ランダム再生モード　ランダム再生モード解除

■ランダム再生モードを解除するには

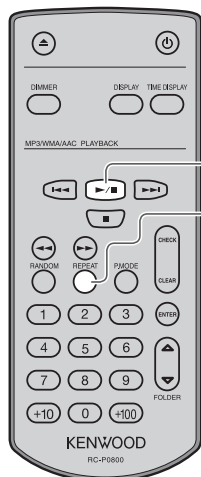
[RANDOM]キーを押し、「RANDOM」表示を消灯させます。

ランダム再生中に**[■]**キーを押すと、ランダム再生モードを解除して停止します。

● フォルダ再生モードのときは、フォルダ内でランダム再生します。

● **[I◄◄]**キーを押すと、再生している曲の初めに戻ります。

リピート再生する

CD の曲を繰り返し再生します。

[►/II]キーを押して繰り返したい曲を再生する

2

[REPEAT]キーを押してリピート再生する

押すたびに次のように切り換わります。

REPEAT 1 点灯 ▶ REPEAT 点灯 ▶ REPEAT 消灯

REPEAT 1 点灯	REPEAT 点灯	REPEAT 消灯
1曲リピート再生	全曲リピート再生	リピート再生を解除

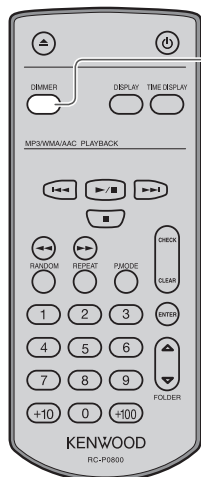
■リピート再生モードを解除するには

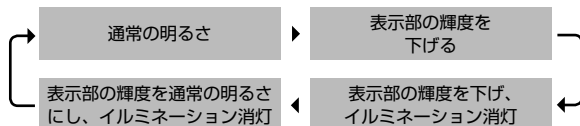
[REPEAT]キーを押し、「REPEAT」表示を消灯させます。

- フォルダ再生中に**[REPEAT]**キーを押すと「REPEAT」と「🗀」が点灯し、フォルダ内の曲を全曲リピート再生します。
- プログラム再生中に**[REPEAT]**キーを押すと「REPEAT」と「PGM」が点灯し、選んだ曲を繰り返し再生します。
- ランダム再生中に**[REPEAT]**キーを押すと「REPEAT」と「RANDOM」が点灯し、ランダム再生がひと通り終わってから、新たに違う順番でランダム再生が始まります。フォルダ再生しているときは、フォルダ内の曲が違う順番でランダム再生されます。

ディスプレイ設定

ディスプレイの明るさを設定する（DIMMER）

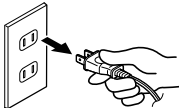
ディスプレイ（表示部）の明るさを調節したり、本体のイルミネーションの点灯のしかたを設定します。お好みやお部屋の状態によって調節してください。

1 [DIMMER]キーを押す

押すたびに次のように切り換わります。

メッセージ表示一覧

ディスプレイ表示	意　味
CAN'T PLAY	本機で再生できないファイルを再生しようとしている。 →自動的に次のオーディオファイルへスキップされる。
CHECK DISC	●TOC[*1]情報を読むことができない。 →ディスクが汚れている。「CDディスクの保管とお手入れ」を参照し、ディスクの汚れをふきとる。(P.36参照) ●ディスクが正しく挿入されていない。 →ディスクを正しくトレイに置く。(P.20参照) ●再生可能なオーディオファイルがない。
NO DISC	CDが入っていない。 →CDを入れる。
NO PGM	曲がプログラムされていない。 →聞きたい曲をプログラムする。(P.26参照) →プログラムモードを解除して通常再生する。(P.28参照)
NO TEXT	CD-TEXTディスクのテキスト情報がない。
PGM FULL	CDのプログラムで33曲目を選択しようとしている。 →プログラムできるのは32曲まで。(P.27参照)
PROTECTED	著作権保護機能がオンになっているオーディオファイルを再生しようとした。 →自動的に次のオーディオファイルへスキップされる。
TRAY OPEN	CDトレイが開いている。 →CDトレイを閉める。
・・・・・・・・・・・・・	TAG情報がない。(P.23参照)

＊1：CDには音声信号以外にTOC（Table of Contents）という情報が記録されています。TOCとは本の目次に相当し、曲数や演奏時間、文字情報などのうち、書き直すことのできないものが入っています。

故障かな？と思ったら

調子が悪いと故障と考えがちですが、サービスに依頼する前に、症状にあわせて一度チェックしてみてください。

本体部

症　状	考えられる原因・処置	参照ページ
CDを入れても再生できない。	●レーベル面を上にして、正しく入れる。 ●「CDディスクの保管とお手入れ」を参照し、ディスクの汚れをふきとる。 ●「結露にご注意」を参照し、露を蒸発させる。	20 36 36
音声が出ない。	●[►/❚❚]キーを押す。 ●「CDディスクの保管とお手入れ」を参照し、ディスクの汚れをふきとる。	20 36
音とびがする。	●「CDディスクの保管とお手入れ」を参照し、ディスクの汚れをふきとる。	36
再生できないオーディオファイルがある。	●オーディオファイルが壊れている場合は再生できない。 ●本機で再生できるオーディオファイルか確認する。	12
再生するまでに時間がかかる。	●フォルダの数が多いときは再生するまでに時間がかかる場合がある。	24
TAG情報が正しく表示されない。	●「再生できるオーディオファイル」を参照し本機で表示できるTAG情報を確認する。	12

リモコン部

症　状	考えられる原因・処置	参照ページ
リモコンで操作できない。	●新しい電池に入れ換える。 ●操作範囲内で操作する。	19 19

マイコンをリセットするには

症　状	考えられる原因・処置
マイコンが誤動作（操作できない、表示部の誤表示など）する。	●電源がオンのときの接続コードの抜き差しや、外部からの要因により、誤動作することがあります。 次の手順に従い、マイコンをリセットしてください。 ❶電源プラグをコンセントから抜きます。 ❷再度本体の電源[⏻]キーを押しながら、電源プラグを差し込み直します。 本　体 ❸マイコンをリセットすると右記のディスプレイが表示されます。 ●ディスクが入ったままリセットすると自動的に排出されます。ディスクを取り出してからCDトレイを閉じてください。 INITIALIZE

用語集

用　語	意　味	ページ
AAC	正式名「Advanced Audio Coding」の略称です。デジタル放送などに使用されている画像圧縮方法のオーディオ部分のみの圧縮規格です。	12
CD-DA	音楽CDのこと。一般的に「CD」といえば、ほとんどの場合、CD-DAを指します。	11
CD-TEXT	ディスク名、アーティスト名、曲名等の文字情報が記録された音楽CDの呼称です。	23
MP3	独Fraunhofer IISが開発した音声圧縮方式のひとつで、人間の聞き取りにくい部分のデータを間引くことによって高い圧縮率を得ることができ、音楽CD並みの音質を保ったまま約1/11（128kbps）に圧縮することができます。	12
WMA	米国マイクロソフト社が開発した音声圧縮符号化方式「Windows Media™ Audio」の略称です。	12
サンプリング周波数	アナログ信号からデジタル信号への変換を1秒間に何回行うかを示す数値。音楽CDの場合は44.1kHz。一般的にサンプリング周波数が高いほど高音質となります。	12
ビットレート	1秒間にどのくらいの情報量があるかを示す数値。ビットレートが高いほど高音質となります。	12

保管とお手入れ

本機の保管とお手入れ

■次のような場所に置かない

- 直射日光の当たる場所。
- 湿気やほこりの多い場所。
- 暖房器具の熱が直接当たる場所。

■結露にご注意

本機と外気の温度差が大きいと、本機に水滴（露）が付くことがあります。この現象がおきますと、本機が正常に動作しないことがあります。このようなときには、数時間放置し、乾燥させてからご使用ください。
気温差の大きいところへ持ち込んだときや、湿気の多い部屋などでは、特に結露にご注意ください。

■汚れたら

前面パネル、ケースなどが汚れたときは、柔らかい布でからぶきします。シンナー、ベンジン、アルコール、接点復活剤などは変色、変形の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。

CDディスクの保管とお手入れ

■保管するときは

長い間使用しないときは、本機から取り出し、ケースに入れて保管してください。

■汚れたら

- ディスクに指紋や汚れがついたときは、やわらかい布などで、放射状に軽くふきとってください。
- レコードクリーナーやシンナー、ベンジン、アルコールでふかないでください。
- ディスクアクセサリー（スタビライザー、保護シート、保護リングなど）およびレンズクリーナーは使わないでください。

■その他お守りいただきたいこと

- 鉛筆やボールペンなどで字を書かないでください。
- シールやラベルがはがれたり、のりがはみ出しているCDは使わないでください。
- 紙やシール、ラベルを貼らないでください。

保証とアフターサービス よくお読みください

保証書

製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめの上、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間

保証期間は、お買い上げの日より1年間です。
電池や、一部の消耗部品の交換、ならびに落下、水没など、不適切なご使用による故障の場合は、保証期間内でも有料となります。詳しくは保証書をご覧ください。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、このステレオの補修用性能部品を、製造打ち切り後8年保有しております。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご相談・ご不明な点は

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。（お問い合わせ先は、「ケンウッド全国サービス網」P.38参照）

修理を依頼されるときは

「故障かな？と思ったら」に従って調べていただき、なお異常がある時は、製品の使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

● お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害

● 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

■保証期間中は

保証期間中は保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービス窓口が修理をさせていただきます。
修理に際しましては保証書をご提示ください。

■出張修理／持込修理

「出張修理」、「持込修理」のどちらが適用されるかは機種によって異なります。保証書の記載をご確認ください。出張修理を依頼される時は、次のことをお知らせください。

● 製品名

● 製造番号（Serial No.）

● お買い上げ年月日

● 故障の症状（できるだけ具体的に）

● ご住所
（ご近所の目印等も併せてお知らせください。）

● お名前、電話番号、訪問ご希望日

■保証期間が過ぎているときは

保証期間が過ぎている時は、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

■修理料金の仕組み（有料修理の場合は、次の料金をいただきます）

● 技術料： 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等の設備費や、一般管理費などが含まれています。

● 部品代： 修理に使用した部品の代金です。その他、修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

● 出張料： 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 送　料： 郵便、宅配便などの料金です。保証期間内に無償修理などを行うにあたって、お客様に負担していただく場合があります。

ケンウッド全国サービス網

使いかたや製品に対するお問合せは、カスタマーサポートセンターをご利用ください。
修理などアフターサービスについてのお申し込みは、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお申しつけください。

（各サービス窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがありますのでご了承ください） **2007年08月現在**

地域	サービスセンター	〒	所在地	☎
北海道	札幌サービスセンター	007-0834	札幌市東区北34条東14-1-23	(011) 743-7740
東北	仙台サービスセンター	984-0042	仙台市若林区大和町5-32-12(サンライズ大和1F)	(022) 284-1171
関東・信越	さいたまサービスセンター	330-0801	さいたま市大宮区土手町1-2(JA 共済埼玉ビル1F)	(048) 647-6818
	千葉サービスセンター	277-0081	柏市富里1-2-1	(04) 7163-1441
	横浜サービスセンター	226-8525	横浜市緑区白山1-16-2	(045) 939-6242
	新潟サービスセンター	950-0923	新潟市姥ケ山1-5-37	(025) 287-7736
	目黒サービスセンター※	153-0042	目黒区青葉台3-17-9	(03) 3477-5411
中部・甲州	名古屋サービスセンター	462-0861	名古屋市北区辻本通1-11	(052) 917-2550
	静岡サービスセンター	420-0816	静岡市葵区沓谷5-61-1	(054) 262-8700
	金沢サービスセンター	920-0036	金沢市元菊町21-87	(076) 265-5045
近畿・四国	大阪サービスセンター	532-0034	大阪市淀川区野中北2-1-22	(06) 6394-8075
	高松サービスセンター	760-0068	高松市松島町3-1	(087) 835-2413
中国	広島サービスセンター	731-0137	広島市安佐南区山本1-8-23	(082) 832-2210
九州	福岡サービスセンター	815-0035	福岡市南区向野2-8-18	(092) 551-9755
	鹿児島サービスセンター	890-0063	鹿児島市鴨池2-15-10(パレス鴨池1F)	(099) 251-6347
	沖縄サービスセンター	901-2101	浦添市西原4-36-17(株)物琉2F	(098) 874-9010

● ケンウッドサービス窓口　営業時間のご案内：
午前10 時から午後6 時まで
月曜日～金曜日（土曜、日曜、祝日及び当社休日を除く）

※ 目黒サービスセンターは修理持込専用窓口となっております。
電話でのお問合せはカスタマーサポートセンターへの転送にて承ります。

カスタマーサポートセンター

カスタマーサポートセンター

●ナビダイヤル　☎ 0570-010-114（一般電話・公衆電話からは、
どこからでも市内通話料金でお問い合わせが可能です）
携帯電話、PHS、IP 電話からのご利用は　☎ (045) 933-5133　FAX (045)933-5553

● 営業時間のご案内：
月曜～金曜　午前9 時30 分から午後6 時
土曜　午前9 時30 分から午後12 時、
午後1 時から午後5 時30 分
（日曜、祝日及び当社休日を除く）

●住所　〒 226-8525　横浜市緑区白山1-16-2

定 格

[CDプレーヤー部]

読み取り方式 .... 非接触光学式読み取り（半導体レーザー）

D/Aコンバーター .... 1 ビット

オーバーサンプリング..................... 128 fs（5,644 kHz）

周波数特性 .... 8 Hz ～ 20 kHz（JEITA）

SN比.. 105 dB以上（JEITA）

ダイナミックレンジ......................... 100 dB以上（JEITA）

総合ひずみ率 .... 0.005 %以下（1 kHz）（JEITA）

チャンネルセパレーション ..... 100 dB以上（1 kHz）（JEITA）

出力レベル/インピーダンス
固定出力.. 2.0 V/100 Ω

デジタル出力 (レベル/波長/インピーダンス)
光（オプチカル）
.... –21 dBm ～ –15 dBm（発光波長 660 nm）
同軸（コアキシャル）........................... 0.5 Vp-p/75 Ω

[電源部・その他]

電源電圧・電源周波数........... AC 100 V, 50 Hz/60 Hz

定格消費電力（電気用品安全法に基づく表示）.......... 11 W

待機時消費電力.. 0.2 W以下

最大外形寸法
幅... 270 mm
高さ... 99 mm
奥行... 296 mm

質量（重量）... 3.4 kg（正味）

本製品は「JIS C61000-3-2適合品」です。

- これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。
- 極端に寒い（水が凍るような）場所では十分な性能が発揮できないことがあります。

お電話による使いかた・商品に関するご相談

カスタマーサポートセンター

受付時間　月曜日～金曜日　**9:30 ～ 18:00**
　　　　　土曜日　　　　　**9:30 ～ 12:00、13:00 ～ 17:30**
　　　　　※日曜、祝日及び当社休日を除く

0570-010-114

※一般電話･公衆電話からは､市内通話料金でご利用いただけます。

- 携帯電話、PHS、IP 電話からは **045-933-5133**
- FAX　**045-933-5553**

ホームページのサポート情報について

製品に関する一般的なご質問などをホームページにて、情報提供しています。ご活用ください。
http://www.kenwood.co.jp/faq/

修理などアフターサービスについて

お買い上げの販売店か、「**ケンウッド全国サービス網**」をご参照のうえ、最寄りのサービス窓口にご相談ください。

KENWOOD

株式会社 ケンウッド
〒 192-8525　東京都八王子市石川町 2967-3